

1 出題の意図

論理的文章を題材にした総合問題2題によって構成されています。2026年度では、読書と知的発達に関する内容を話題にした文章（大問1、約2200字）と、生命科学の本質をテーマにした文章（大問2、約2300字）が出題されました。大問1・大問2で題材とされている文章は、人文科学・社会科学・自然科学の内容に関わる多岐にわたるものですが、内容が把握しやすい明解な文章となっています。そのため、文章を確実に読み取って理解する読解力が求められ、それを問うような出題となっています。設問は基礎的な語彙知識として、漢字問題や語句の意味を問う問題が出題されています。また問題文の理解を問う問題として、接続語や重要語の空欄補充問題、傍線部の意味内容や理由を問う問題、内容と選択肢との内容の合致を問う問題などが出題されています。設問自体は文章の理解が十分であれば、難解なものではありませんが、字数制限内でまとめなければならない形式の記述問題が出題されているため、対策が必要です。解答は全問記述式で記述問題と記号選択問題があります。記述問題は漢字の読み書きのほか、字数制限のある読解問題が出題され、記号選択問題については4つの選択肢から正解を1つ選ぶ形式となっています。なお、設問数は各大問8題の合計16題、解答数は大問1が16個、大問2が13個の合計29個でした。

2 受験対策

(1) 硬質の文章を読み解く読解力を養う

出題の意図で述べられているように、比較的短い論説文・評論文をもとに総合的な読解力を問うという問題になっています。日頃から社会問題や専門分野について、ある程度の形式に則った文章で記述されている新書程度の硬質な文章に読み慣れておきましょう。大学入試で論説文・評論文が出題されるのは、そうした文章を読み取る力が必要となるからです。大学入学後のことも踏まえて読書の幅を広げておくようにしましょう。また、問題集を用いての問題演習も国語の力を伸ばす上で必須となります。問題文の内容理解に重点を置く、根拠を見つけて解答を導き出す、把握した内容をまとめて文章にして表現する、それらを必ず復習する、などの点に注意して問題演習に取り組んでください。

(2) 語彙力・漢字力の充実に努める

文章を読み取る基礎となるのが語彙力です。この点に不安のある人はその強化に努めることが必要になります。具体的にはこれまで使ってきた教材を用い、意味を曖昧なままにしている言葉や書けない熟語について確認していくとよいでしょう。また毎日の学習に漢字練習を必ず組み入れることも大切です。漢字問題の配点は特別大きくはありませんが、記述式のため一点一画を正確に書くことが求められます。また、準備しておけば確実に得点できる分野であり、これをクリアすることで他の設問にも落ち着いて取り組めるようになるはずです。

(3) 記述問題対策は必ず行う

特徴の一つに、解答方式を記述式とし、かつ字数制限のある記述問題を複数出題していることが挙げられます。私立大学全般ではマークセンス方式が主流となり、記述式の設問に取り組むことが少なくなっているだけに記述問題対策はしっかり行いましょう。問題文の理解に深くかかわることが多く、配点も高い傾向にあります。具体的には記述問題を掲載した問題集を用いて解答を試み、正答と比較検討することが基本となります。自分自身で解答の正誤を判断するのが難しい場合は、学校の先生や塾の講師などに見てもらおうとよいでしょう。実際に解答をまとめる練習を多く積むことが記述問題に強くなる一番の方法となります。

一般選抜〔国語〕

1 出題の意図

各日程ともに、問題用紙2ページ程度(約 2000～2500 字)の文章を題材にした総合問題が2題出題されます。出題される文章は人文科学・社会科学・自然科学などのそれぞれの分野や、現代の科学技術や社会問題を話題にしたものまで、さまざまな分野にわたっています。文章量は試験時間に対して多いものではなく、文章と内容は明解で把握しやすいものです。設問については漢字力・語彙力といった基礎的なものから、文脈把握力・内容把握力など受験者の国語力を総合的に見ようとする出題になっています。解答は全問記述式で、大問ごとの小問数は8問程度です。設問は、漢字の読み書き、慣用表現や語句の理解を問う問題、接続語や重要語の空欄補充問題、傍線部の意味や理由を問う問題、文章の内容と選択肢の内容の合致を問う問題などが出題されます。○字以上○字以内といった字数制限のある読解問題が大問ごとに2題程度出題される点や、各大問の最後に文章の内容に合致するものを選択肢の中から一つ選ぶ形式の内容合致問題が出題される点に注意しましょう。各日程の問題はそれぞれ問題文になっている文章こそ違いますが、出題の形式や内容に大きな差はなく、問われる国語力についての傾向は共通しています。実際に問題を解くことで、大学でどのような国語力が求められているかがわかるでしょう。

2 受験対策

(1) 合格に向けた長期計画を立て、それを日々の学習に落とし込もう

受験勉強は長い期間続くことになります。合格に向けてどのように歩みを進めていくか、年間の学習計画を立てましょう。その際に重要となるのは、現在の力を把握し、合格に向けてどのような力を伸ばしていけばよいかを考えた上で学習計画を立てることです。例えば、現在の自分の力では解けない問題を入試までに解けるようにするために具体的に何をすればよいかを考え、それを「一日に2題の読解問題を解く」「漢字、熟語問題を一日10問解く」などの具体的な毎日の学習活動としましょう。地道な学習を続けていくことが求められます。

(2) 日頃から硬質な文章に慣れ、読解力を鍛える

出題される文は比較的明解で内容も把握しやすいものですが、大学入試にふさわしい論理的な文章が出題されます。新聞のコラムや社説、新書など形式の整った硬質な文章を日常的に読むようにするとよいでしょう。また、そのような文章を多く集めた問題集で問題演習を行うことも、文章を読む力、問題を解く力を鍛えるために有効です。読解力を鍛えるための問題演習においては、問題文の内容の理解を第一に本文に向かい合い、設問に対しては、センスや感覚頼みではなく、問題文の理解に即し「本文にこう書いてあるから正解だ」という根拠に基づき、論理的に答えを導き出せるようにしましょう。

(3) 記述形式特有の落とし穴に気をつけよう

漢字問題では、日常よく使われる語が正確に書けるかどうかという観点から出題されており、特別難度の高い問題が出されるわけではありません。しかし、記述式の解答形式のため、だいたいの字形がわかるというだけでは正解になりません。漢字の部首や点画の書き方などの細かい点を日頃から正確に覚えて書くことが大切です。また、字数制限のある記述問題に取り組む際には、文章中のどのような内容を盛り込むか、文章の形式として整っているかを意識しながら、自分以外の人でも読みやすい、正確な表記で解答するという点にも注意して学習を進めていきましょう。

一般選抜 [英語]

1 出題の意図

各日程ともに、Ⅰ整序問題、Ⅱ英文法語法・語彙問題、Ⅲ論説文＋対話文、という3題構成です。Ⅰは、記号ではなく英文を書かせる形式で、Ⅱは選択問題で選択肢は全て4つで統一されています。Ⅰ、Ⅱは、ともに、「論理表現」や「コミュニケーション英語」の教科書や参考書に掲載されているレベルの文や文法事項などが分野に偏りなく出題されており、英語の基礎的な知識を測るのが出題の意図となっています。Ⅲは2部構成で、前半が250～400語程度の論説文で、2題の選択式問題が出題されています。論説文は、25年度には「水資源」、「健康と睡眠」「海洋生物（タコ）の生態」が、26年度には「環境問題（リサイクル）」、「クールジャパン」「日本企業の国際化（IT 関連）」が出題されており、理系・文系を問わず、かなり専門的な題材が幅広く選ばれています。前半2題の選択式問題では、ある程度まとまった長さの論説文の内容理解を測るのが出題の意図となっています。Ⅲの後半は、前半の論説文の話題に関する200～400語程度の対話文で、4題の選択式問題が出題され、最後に、対話文中の話者が発する質問を一つ抜き出し、それに対してどのように答えるか、という形式の自由英作文が1題出題されています。4題の選択式問題では、前半の論説文の内容をある程度ふまえた上での対話の内容理解を測るのが出題の意図となっています。自由英作文の出題の意図は、50～60語程度で自分の考えをまとめる英語運用能力を測ることです。

2 受験対策

(1) 英文法・語法・語彙は、基礎をしっかりと身に付けよう

ふだんから、「論理表現」や「コミュニケーション英語」の教科書や参考書にある例文を学習しましょう。Ⅰの整序問題は、英文を書く形式なので、問題演習の際には、記号ではなく、丁寧な字で速く正確に英文を書く練習をしましょう。Ⅰ、Ⅱともに、問題のレベルは基礎的なので、英文法・語法・語彙を扱った市販の問題集（1000～1500題程度収録のもの）を学習して速く解答できるようになり、Ⅰ、Ⅱを速く正確に解いて難度の高いⅢに費やす時間を確保するようにしましょう。基礎的な英文法・語法・語彙の知識があれば、Ⅲの最後に出題される自由英作文についても、自分に可能な範囲での解答が可能になります。

(2) 長文読解は、内容の難しさにとまどわないようにしましょう

Ⅲの前半の論説文は、ある程度まとまった長さで難度も高いので、受験生個人が知らない話題が出題されると、内容を把握しにくく全文を読み切るのに時間がかかる可能性があります。しかし、一語一句を理解できない時でも、設問の選択肢が内容理解のヒントになります。また、後半の対話文も前半の論説文の内容を把握するヒントになることがあります。前半の論説文では、まず全体に目を通し、設問の選択肢をヒントにしながら設問に解答し、自信がない設問については、さらに後半の対話文をヒントに考えるようにしましょう。なお、このような形式、レベルの問題は他にあまり例が見られないので、過去問での演習が有効となります。

(3) 自由英作文は、50語程度で自分の考えを述べられるようにしましょう

25年度は「水を節約するために何を提案するか」、「より良い睡眠をとるために何をするか」、26年度は「環境問題を解決するために何かしているか」、「生産性を高めるために日本人は働き方を変えるべきだと思うか」などの質問に答える問題が出題されました。前者（25年度）のタイプの質問であれば、I thinkなどで書き出し、後者（26年度）のタイプの質問であれば yes や no で返答してから自分の考えを書

き出すようにしましょう。過去問での練習の他、英検準2級の「ライティング」なども50語程度の英語で自分の考えを書く良い練習となるので、うまく活用しましょう。また、難度の高い設問だからと言って、難度の高い語彙等を使わなければならないということではありません。自分の英文法・語法・語彙の知識に可能な範囲で、たとえ50語に達しないとしても、自分なりの意見を英語で表現できるようにしましょう。

一般選抜 [数学]

1 出題の意図

昨年度の入試から「生活の一部を題材とした読解力や活用力を見る問題」を導入しています。また、共通テスト同様「具体的な実社会での設定に対して、数学を適用して解釈する問題」や「複数の登場人物の会話から、その人物の考えを踏まえて解答する問題」などが出題されています。

2026年度入学生向けの入試ではA日程・B日程において、出題範囲は数学Ⅰ・A、試験時間は60分です。解答形式は記述式で、出題数は大問が6題です。大問Ⅰ～Ⅴは、それぞれ一つの分野について、4～8個の問いで構成されています。大問Ⅵは、数学用語・概念を説明する文章記述の問題です。出題形式や問題のボリュームなどは前年とほとんど変わっていません。いくつかの問題では、選択式の設問もみられます。

A日程・B日程で、大問Ⅰは「場合の数・確率」から問題が出題されています。大問Ⅱは「データの分析」から問題が出題されています。大問Ⅲは「2次関数」から問題が出題されています。大問Ⅳは「整数の性質」から問題が出題されています。大問Ⅴは「図形と計量」から問題が出題されています。大問Ⅵは「集合と命題」から問題が出されています。出題分野・傾向も前年とほぼ同じですが、出題範囲である数学Ⅰ・Aから出来るだけ偏りがないように出題されています。難問や特殊な解法を必要とする出題はなく、基本的・典型的問題を中心として、教科書の内容を理解し、基本的公式が使いこなせるかを確認するための問題で構成されています。日頃の授業への取り組み姿勢や演習量が点数に反映されやすい問題です。

2 受験対策

(1) 数学Ⅰ・Aを偏りなく学習し、基礎学力の充実を行いましょう

毎年、全日程で数学Ⅰ・Aの各分野からまんべんなく出題されています。したがって、苦手分野を作らないように、常日頃から特定の分野だけに偏らない学習が望まれます。学校の授業を大切にし、教科書・参考書の例題や練習問題を通して授業内容を十分に理解しましょう。その上で、教科書の節末問題や基本問題集での基礎学力の定着と向上に努めましょう。本学は数学用語の意味・解説が記述問題として出題されています。教科書の問題を解くだけでなく、用語解説までよく読み、問題演習で確認するなどの習慣をつけましょう。

(2) 基本的・典型的な問題を確実に解けるようになるよう

本学の問題は基礎学力の確認を行うべく、基本的・典型的な問題を中心に問題が出題されています。しかし、公式を丸暗記しただけで解けるような問題ではありません。教科書や参考書の例題を丁寧に解き、各分野の典型的な問題を通して基礎学力の確認を行って下さい。間違ったり、理解が不十分であったりする箇所は、しっかりと見直し、地盤を固めることが大切です。

(3) 過去問題を必ず解いておこう

今年度の入試では、C日程は昨年度と同じ傾向のものを問題を出題し、A日程・B日程では少し新しい傾向のものを問題を出題しています。2027年度入学生向けの入試では、今年度のA日程・B日程の入試傾向を基に出題していく予定です。難易度や出題分野、解答形式などはどれも似通っていますので、自分の受験する日程の過去問題だけではなく、それ以外の日程の過去問題も、本番と同じように60分間で解いてみましょう。出題形式、難易度などが実感でき、適切な時間配分を見極めることができます。

10月入試 出題の意図と解答例等（評価のポイント）

I

出題の意図：心理学の基本的な知識を身につけているかどうかを確認する。

解答例等（評価のポイント）

- (1) 注意や意識が現在行っている課題とは無関係な思考に向かうという基本的な定義がなされているかを見る。関連話題についての記述があれば加点。
- (2) 言語化が難しい被験者に対し、見慣れた刺激と新奇刺激の提示により、刺激が区別できるかを見る選考方法。馴化という記述があれば加点。
- (3) 提唱者と提唱内容が説明されている。
- (4) 幸福のパラドックスが人間の幸福に関するどのような現象であるのか、およびその心理的メカニズムについて説明されている。
- (5) 学習者が「メタ認知」「動機づけ」「行動（学習方略など）」に能動的に関与することが書かれている。「メタ認知」「動機づけ」「行動（学習方略など）」について、語だけでなく具体的な内容が書かれていれば加点。
- (6) 複数の研究結果を統合して全体としての結論を導くなどメタ分析の基本的記述があれば可。統計分析等の手法について記述があれば加点。
- (7) 心理療法として、支援対象、目的、支援方法が説明されている。
- (8) 発達性協調運動症の基本的な特徴や症状、日常生活への影響について説明されている。
- (9) 喪失の悲嘆への支援であることが示されている。
- (10) 単に病気や虚弱などのネガティブな状態がないことだけでなく、より良好で充実した状態という基本的な説明に加え、より良い状態の具体的な内容が書かれている。

II

出題の意図：心理学の基本的な知識を身につけているかどうかを確認する。

解答例等（評価のポイント）

- (1) ポジティブ心理学の概念（人間のポジティブな側面を科学的に研究する心理学の分野）について適切に説明するとともに、従来の心理学との違いを踏まえて説明できている。
- (2) 心の理論の概念（他者の信念・意図・感情などの心的状態を推測・理解する能力）について適切に説明するとともに、誤信念課題などの代表的研究を踏まえて説明できている。

III

出題の意図：公認心理師として必要な意識・姿勢を理解しているかどうか、またそれを論理的に説明できるかどうかを確認する。

解答例等（評価のポイント）

チーム内守秘義務（支援に関わる専門職間での必要範囲内の情報共有の許容）について適切に説明するとともに、それらがなぜ必要なのかを具体的に説明できている。

IV

出題の意図：公認心理師として必要な知識を身につけているかどうか、またそれを論理的に説明できるかどうかを確認する。

解答例等（評価のポイント）

イド・自我・超自我の役割や機能の説明が適切になされている。

3月入試 出題の意図と解答例等（評価のポイント）

I

出題の意図：心理学の基本的な知識を身につけているかどうかを確認する。

解答例等（評価のポイント）

- (1) その定義について、結果予期と区別して記述されている。そのうえで、自己効力感を高める方法などが書かれていれば加点。
- (2) 集団浅慮がどのような意思決定に至る現象であるのか、およびその心理的プロセスについて説明されている。
- (3) 計算式まで書く必要はないが、どのようにして求められる値であるかが説明されている。
- (4) 2次元の網膜像から3次元の対象あるいは空間を知覚するための情報についての記述があり、それらが両眼手がかりと単眼手がかり（絵画の手がかり）の両者にわたるものであれば可。
- (5) 老いをどのように自覚するのか、内からの自覚と外からの自覚が2つとも説明されていると加点。
- (6) 欲求不満場面の反応傾向を測定する投影法検査であることと、その方法や特徴が説明されている。
- (7) 専門家が他の専門家に助言を行い、その専門家を通してクライアントへの支援を促進する間接的な支援であることが書かれている。
- (8) 不眠症状と日中の活動障害について説明されている。
- (9) 裁判員裁判の対象となる事件や流れについて説明されている。
- (10) どのような対象者にどういう目的で何を行うケアであるかが説明されている。

II

出題の意図：心理学の基本的な知識を身につけているかどうかを確認する。

解答例等（評価のポイント）

- (1) 夫婦関係のポジティブフィードバックは、システムの変化を促進・拡大するもので、ネガティブフィードバックは変化を抑制するものという説明があり、例として、夫が不満や憤りを示した際に妻が同様な態度で返す（ポジティブフィードバック）と、関係が対立し深刻化するが、夫の不満や憤りになだめたり機嫌を取る（ネガティブフィードバック）と夫婦関係が沈静化するなどがある。
- (2) どのような方法で何を測定する心理検査であるかという記述に加え、最もよく使われる内田クレペリン精神検査について、実施方法や評価方法、測定できる心理的特徴などが説明されている。

III

出題の意図：公認心理師として必要な意識・姿勢を理解しているかどうか、またそれを論理的に説明できるかどうかを確認する。

解答例等（評価のポイント）

みずからの専門的水準について自覚する必要がある理由について、みずからの専門的水準を自覚する（またはしない）ことによって生じる結果を挙げながら、自分なりの考えが論理的に説明されている。

IV

出題の意図：公認心理師として必要な知識を身につけているかどうか、またそれを論理的に説明できるかどうかを確認する。

解答例等（評価のポイント）

精神科病院における多職種協働（チーム医療）の基本的理解に加え、チームの中で心理職が果たす役割について説明されている。